

インフルエンザ情報 2014 年 第 19 週 (5 月 5 日 ~ 5 月 11 日)

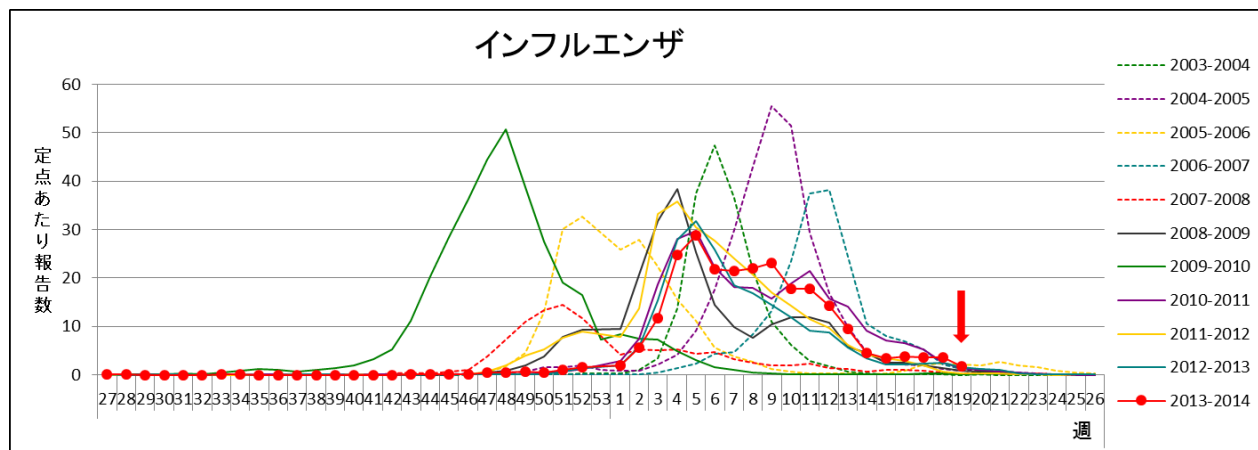
◎岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です。

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で 153 名（定点あたり 3.54 → 1.82 人）の発生があり、前週より減少しました。
- インフルエンザによる入院患者は、1 名の報告がありました。
- インフルエンザとみられる学校等の臨時休業は 2 施設でありました。

【第 20 週 速報】

- インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 9 施設でありました。（5 月 12 日～14 日）



インフルエンザは、県全体で 153 名（定点あたり 3.54 → 1.82 人）の発生があり、前週より減少しました（84 定点医療機関報告）。

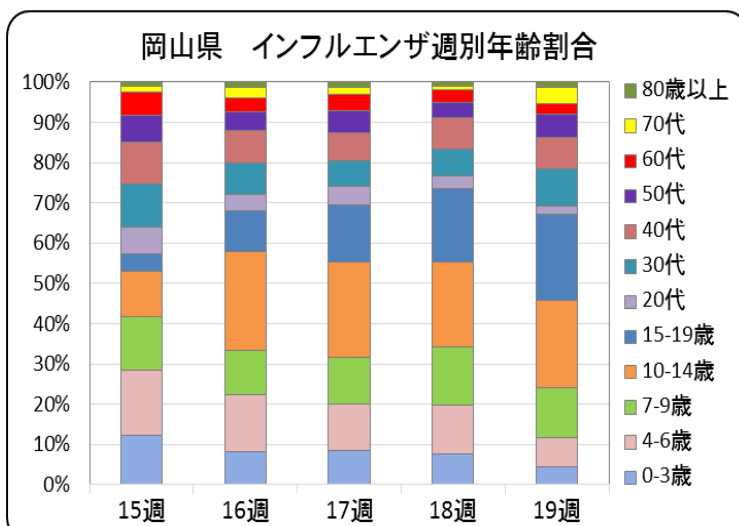
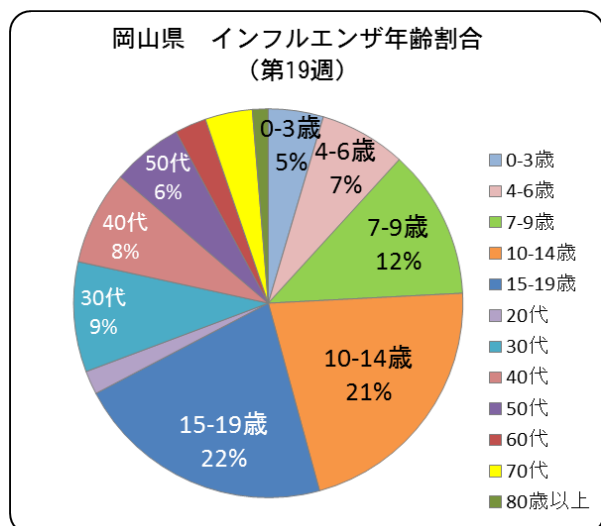
地域別では、備北地域（8.50 人）、備前地域（1.87 人）、美作地域（1.60 人）の順で定点あたりの報告数が多くなりました。全ての地域で減少しましたが、備北地域は依然定点あたりの報告数が多くなっています。5 月 14 日までで、インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 9 施設で報告されており、まだしばらく流行がつづくと思われます。

岡山県ではひきつづき「インフルエンザ注意報」を発令し、注意喚起を図っています。『外出後や食事の手洗い・うがいを徹底する』『人混みを避け、人混みに入るときはマスクを着用する』『十分な睡眠をとる』など、感染予防に努めて下さい。また症状のある方は早めに医療機関を受診するとともに、マスクを着用するなど咳エチケットを心がけましょう。

[インフルエンザ Q&A（厚生労働省）](#)

1. 年齢別発生状況

第 19 週、年齢別割合は、15-19 歳 22%、10-14 歳 21%、7-9 歳 12% の順で多くなっており、小学生・中学生・高校生に該当する年齢層が 55% を占めています。学校等の臨時休業も報告されていますので、ひきつづき集団生活の中での感染に注意してください。

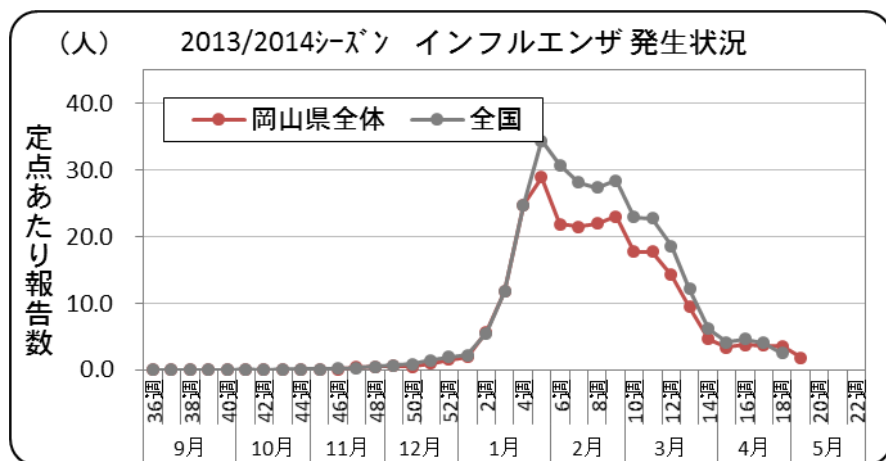


2. 地域別発生状況

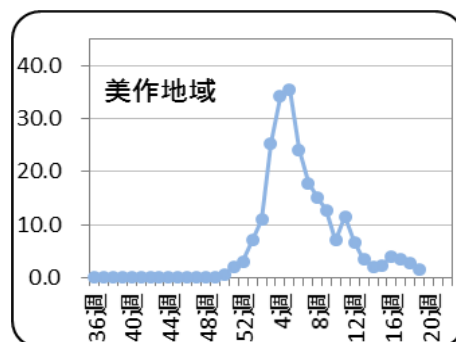
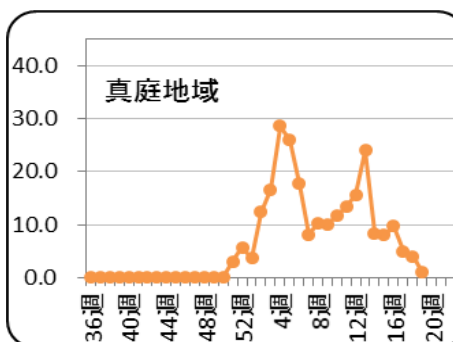
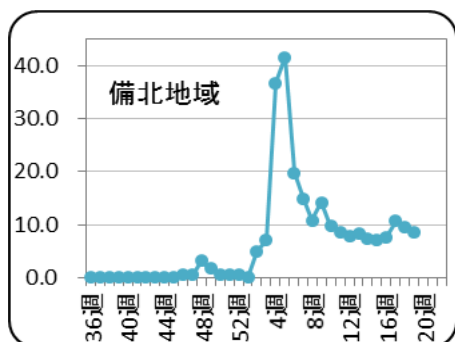
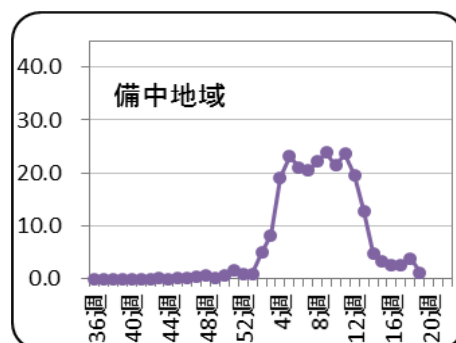
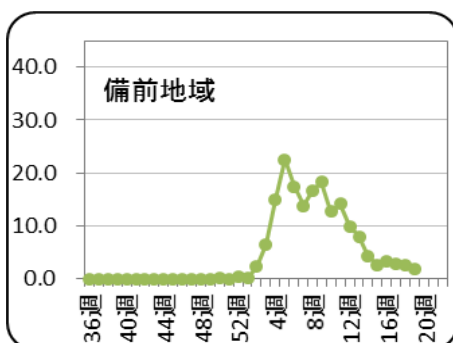
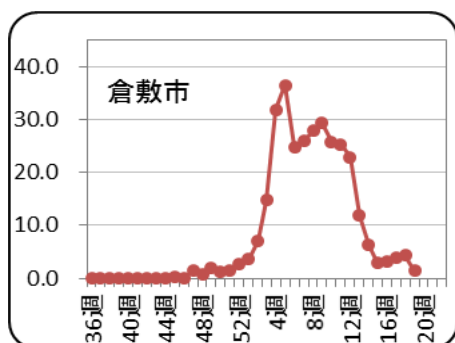
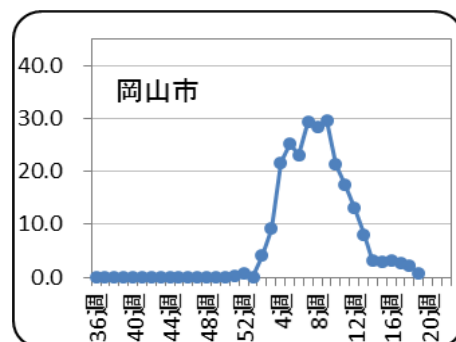
前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	153	↓	備 中	患者数	14	↓
	定点あたり	1.82			定点あたり	1.17	
岡山市	患者数	19	↓	備 北	患者数	51	↓
	定点あたり	0.86			定点あたり	8.50	
倉敷市	患者数	22	↓	真 庭	患者数	3	↓
	定点あたり	1.38			定点あたり	1.00	
備 前	患者数	28	↓	美 作	患者数	16	↓
	定点あたり	1.87			定点あたり	1.60	

【記号の説明】 前週からの推移： 2倍以上の減少 ↓ 1.1～2倍未満の減少 ↓ 1.1未満の増減 →
1.1～2倍未満の増加 ↑ 2倍以上の増加 ↑



全国集計第18週(4/28～5/4)速報値によると、全国では定点あたり2.52人であり、前週より減少しました。地域別では、沖縄県(10.26人)、山形県(9.40人)、岩手県(8.20人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、46都道府県で前週より減少しています。

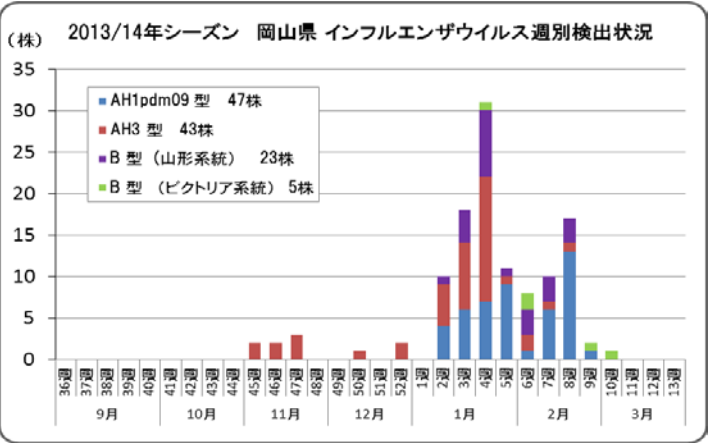


3. インフルエンザウイルス検出状況

第 19 週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、AH1pdm09 型が 1 株でした。今シーズンで、これまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09 型が 47 株（40%）、AH3 型が 43 株（36%）、B 型が 28 株（24%）となっています。

[（岡山県 インフルエンザウイルス分離・検出状況）](#)

全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09 型 44%、B 型 34%、AH3 型 22% の順に多く検出されています。しかし、最近 5 週間（14 週～18 週）の検出割合では、B 型、AH1pdm09 型の順となっています。[（インフルエンザウイルス分離・検出速報（国立感染症研究所））](#)



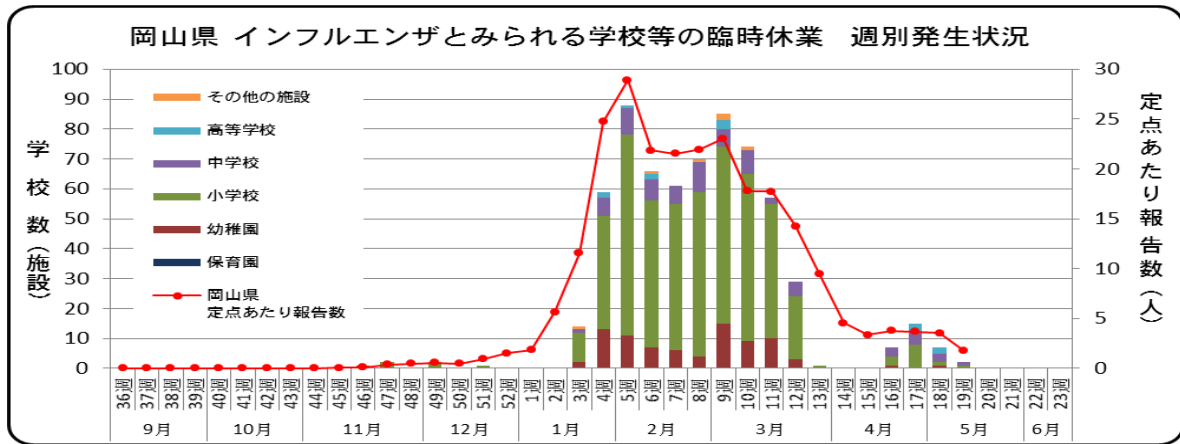
【第 19 週 判明分】

ウイルス名	検体採取週	検体採取日	地域	年齢	性別	備考
インフルエンザウイルスAH1pdm09型	2014年第 7週(2/10～ 2/16)	2014/2/10	備中	幼児	男	

4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザとみられる学校等の臨時休業は 2 施設でありました。

【第 19 週 臨時休業施設数】 ▽岡山市 1 ▽高梁市 1



1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	28	9363	14	7102	2	641	0	17	1	178	1	446	H25. 11. 13
岡山市	12	3840	7	2791	1	231	0	3	0	35	1	193	H26. 1. 14
倉敷市	0	1621	0	1289	0	117	0	1	0	22	0	94	H25. 11. 18
備前地域	0	766	0	623	0	69	0	1	0	35	0	33	H26. 1. 16
備中地域	0	1264	0	991	0	94	0	0	0	24	0	70	H25. 11. 13
備北地域	16	331	7	211	1	19	0	5	1	9	0	5	H26. 1. 23
真庭地域	0	157	0	124	0	16	0	0	0	11	0	5	H26. 1. 27
美作地域	0	1384	0	1073	0	95	0	7	0	42	0	46	H25. 12. 20

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

2) 臨時休業施設数の内訳

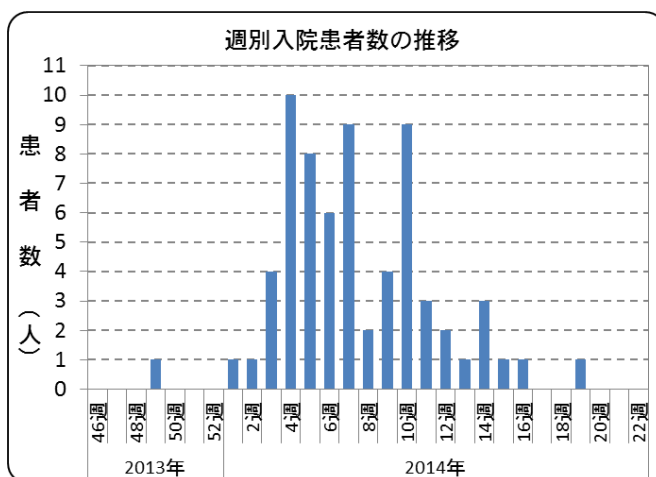
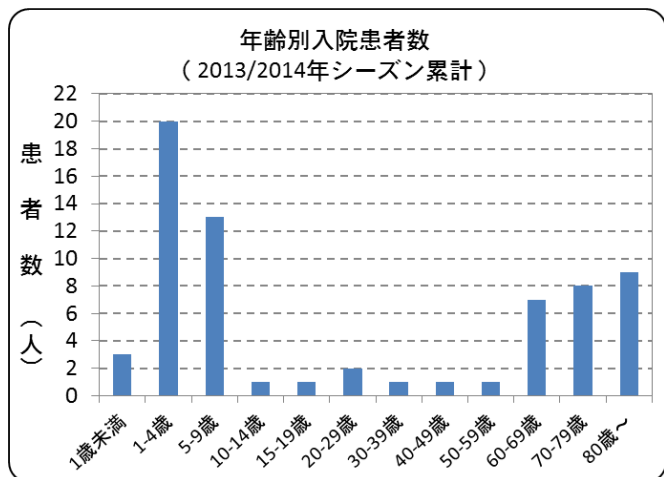
第 19 週： 2 施設 累計： 641 施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	0	83	1	468	1	71	0	13	0	6

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、1 名（1～4 歳）の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。



【第 19 週 入院患者報告数】

年齢	1 歳未満	1～4 歳	5～9 歳	10～14 歳	15～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70～79 歳	80 歳以上	計 *
入院患者数		1											1
ICU 入室													
人工呼吸器の利用													
頭部 CT 検査(予定含)													
頭部 MRI 検査(予定含)													
脳波検査 (予定含)													
いずれにも該当せず		1											1

* 重複あり

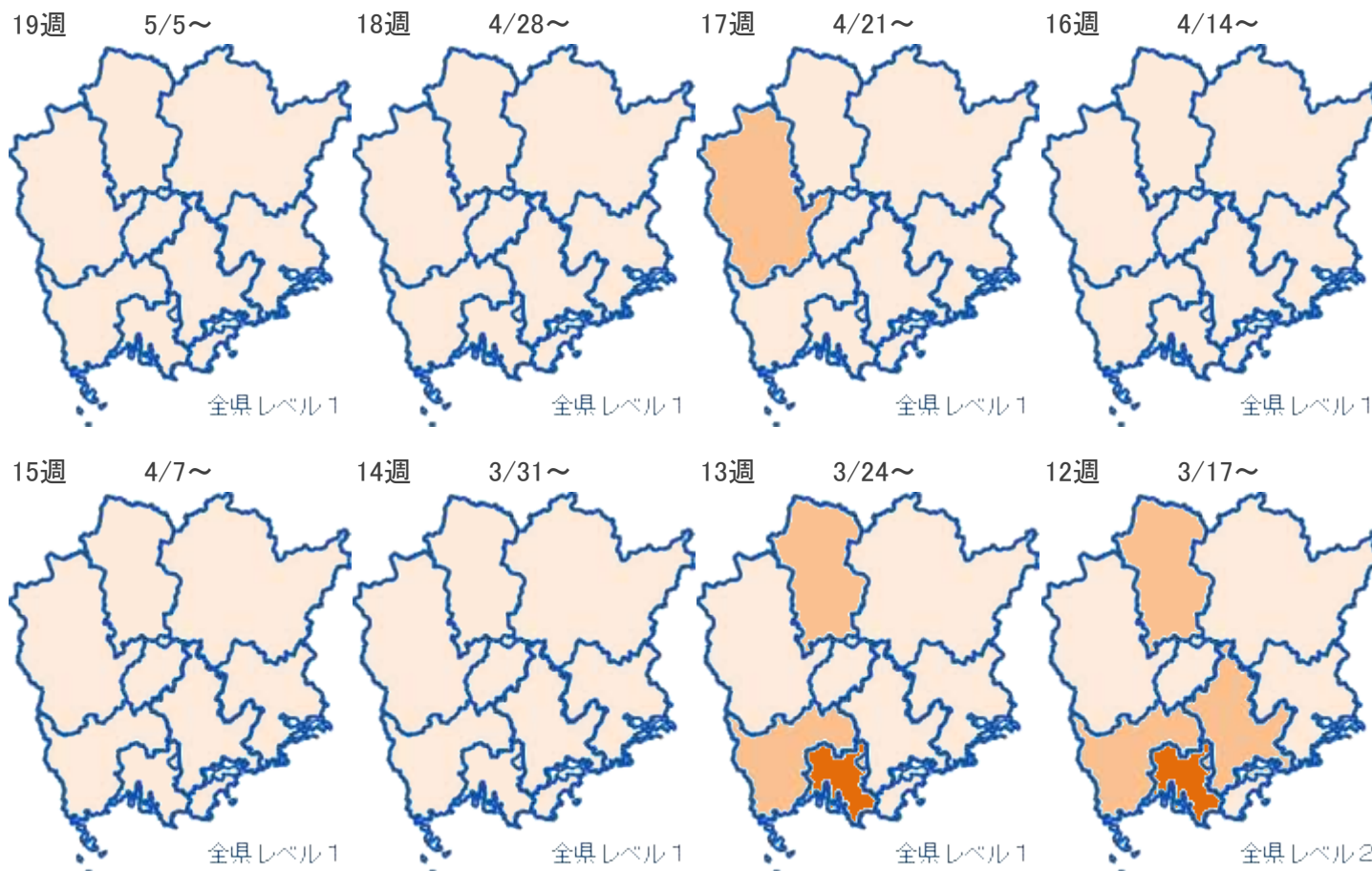
【平成 25 年 9 月 2 日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1 歳未満	1～4 歳	5～9 歳	10～14 歳	15～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70～79 歳	80 歳以上	計 *
入院患者数	3	20	13	1	1	2	1	1	1	7	8	9	67
ICU 入室		1							1				2
人工呼吸器の利用		1									2		3
頭部 CT 検査(予定含)		3	1						1		1		6
頭部 MRI 検査(予定含)	1	2	2						1		1	1	8
脳波検査 (予定含)	1	2	2										5
いずれにも該当せず	2	16	10	1	1	2	1	1		7	5	8	54

* 重複あり



インフルエンザ



レベル3		レベル2	レベル1	報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値	基準値
30	10	10 以上 30 未満	0 < 10 未満	0

レベル3の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらないとレベル3が継続されます。